

北の美談  
時代鏡

外題曲豆団由

~ 13  
3740  
47

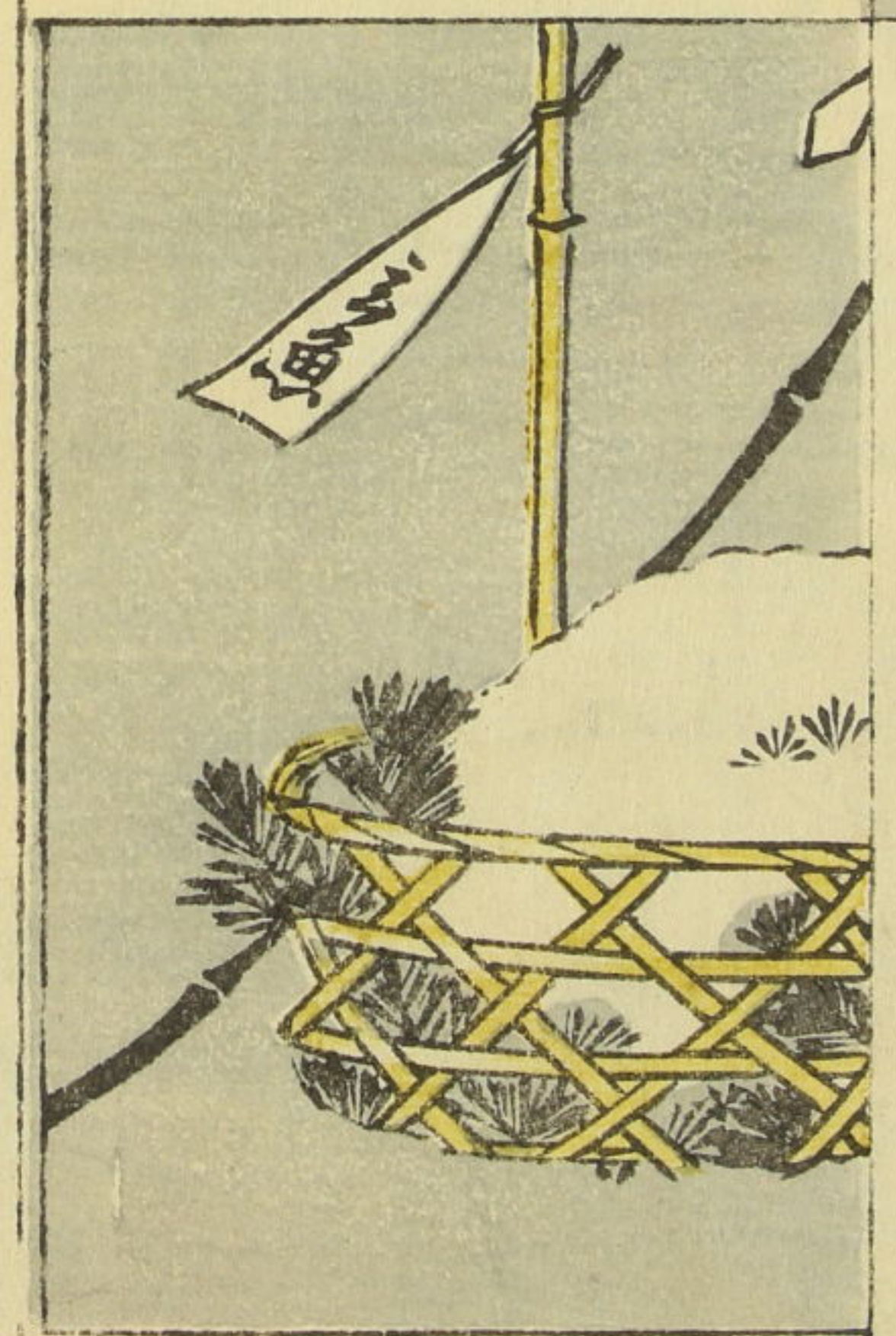


門 13  
 3740  
 卷 47



北雪美談時代  
 鏡二十四編上冊

若林堂販



為家うきすの  
 化いあきふらり  
 与り急り  
 辛酉の秋をむ

一

后羿不死の薬は西王母小請ふ。その  
 妻嫦娥竊ぐ。こゝに食ひ。月宮小入。化して蟾蜍と

今この画は古十代が嫦娥小誘り。この圖は復是嗣  
 輯の観深る。本編の文意と。月と團魚  
 帙紙編果たる。因も。折も仲秋望の夜。此  
 千時萬延元庚申年柳月  
 稿成同二辛酉獻歳發兌

為永春水誌







月宮の嫦娥良夜小  
吉千代茲誘引圖







甲子年

七







一、此の物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

二、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

三、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

四、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

五、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

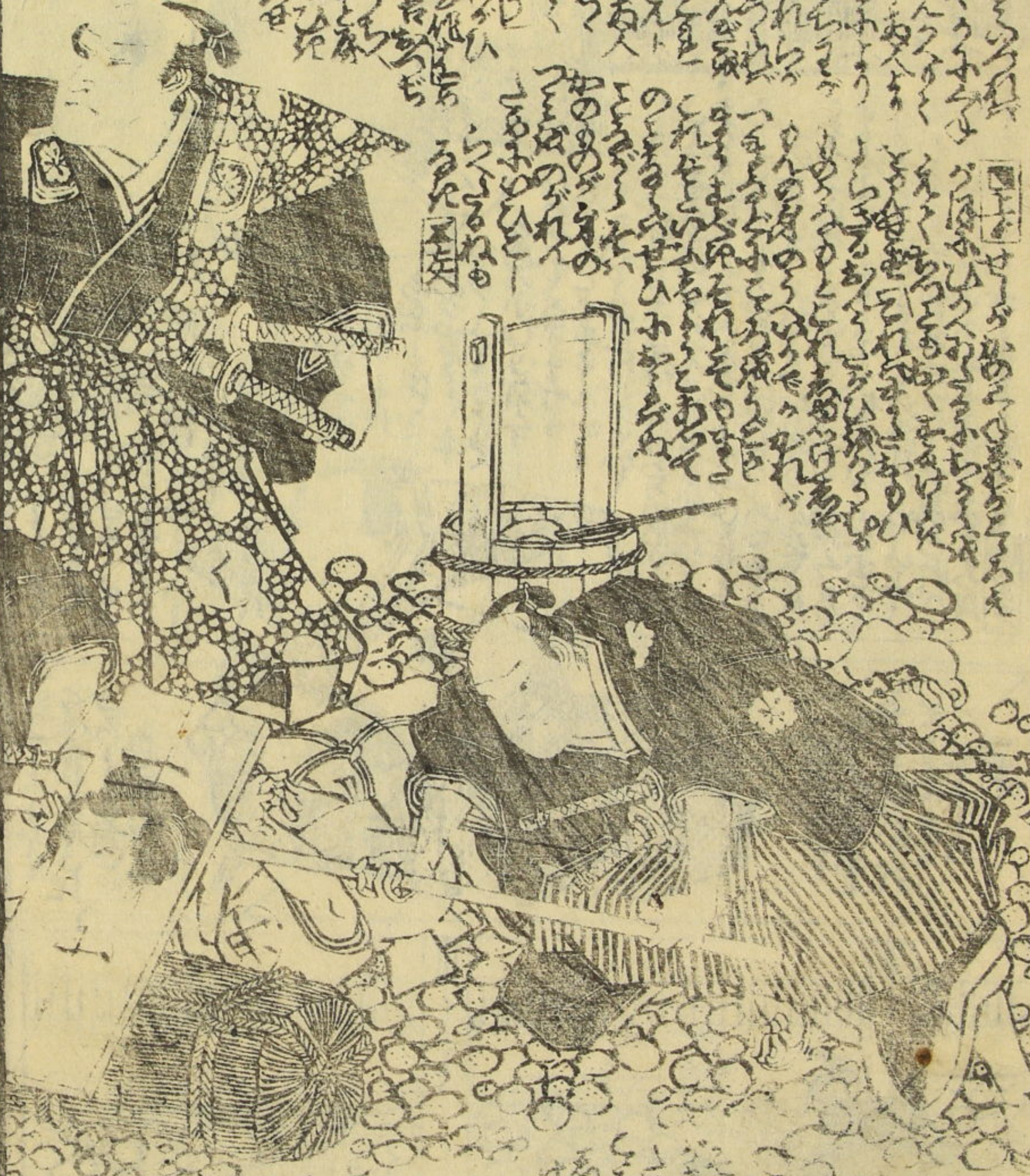
六、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

七、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

八、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

九、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

十、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。



一、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

二、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

三、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

四、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

五、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

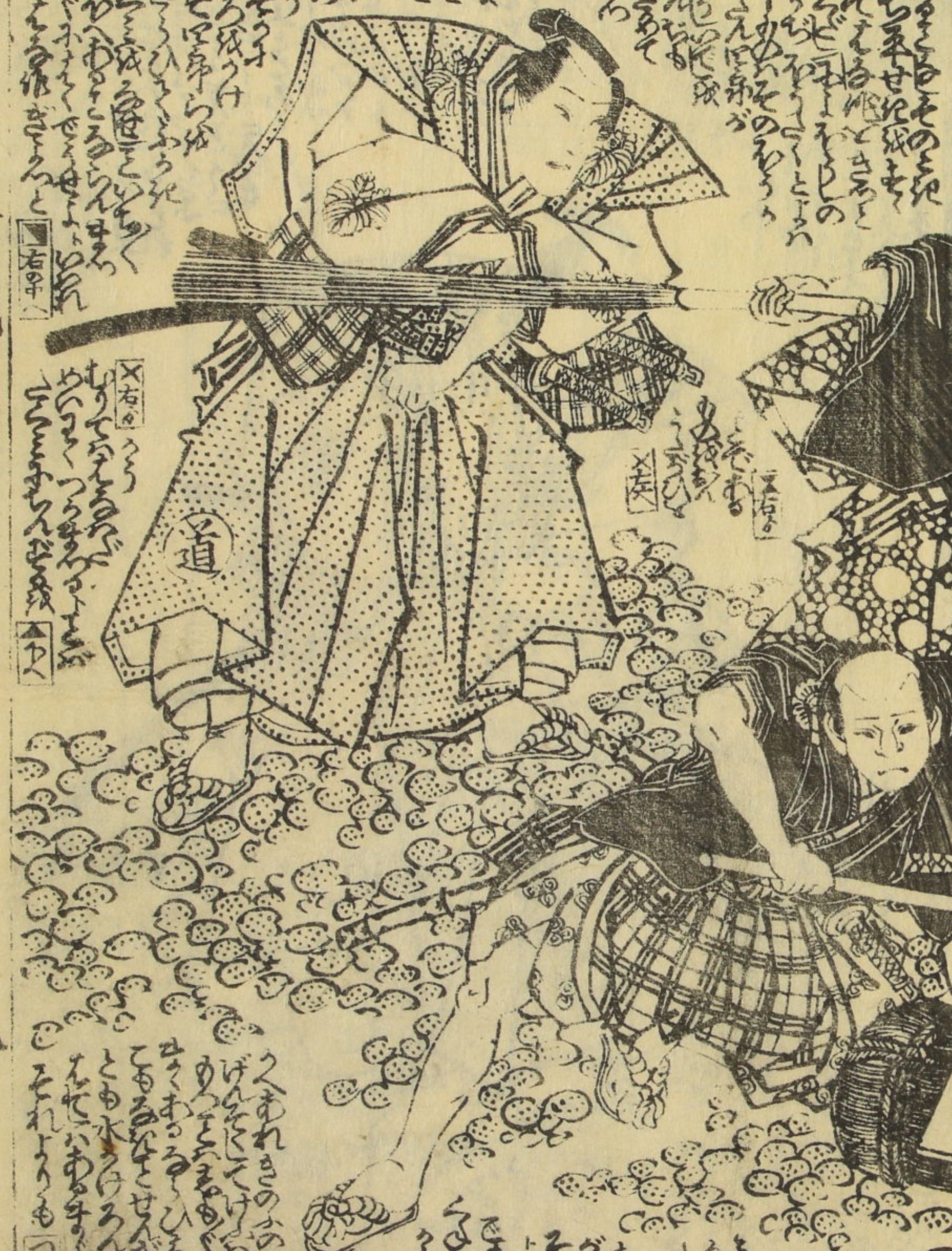
六、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

七、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

八、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

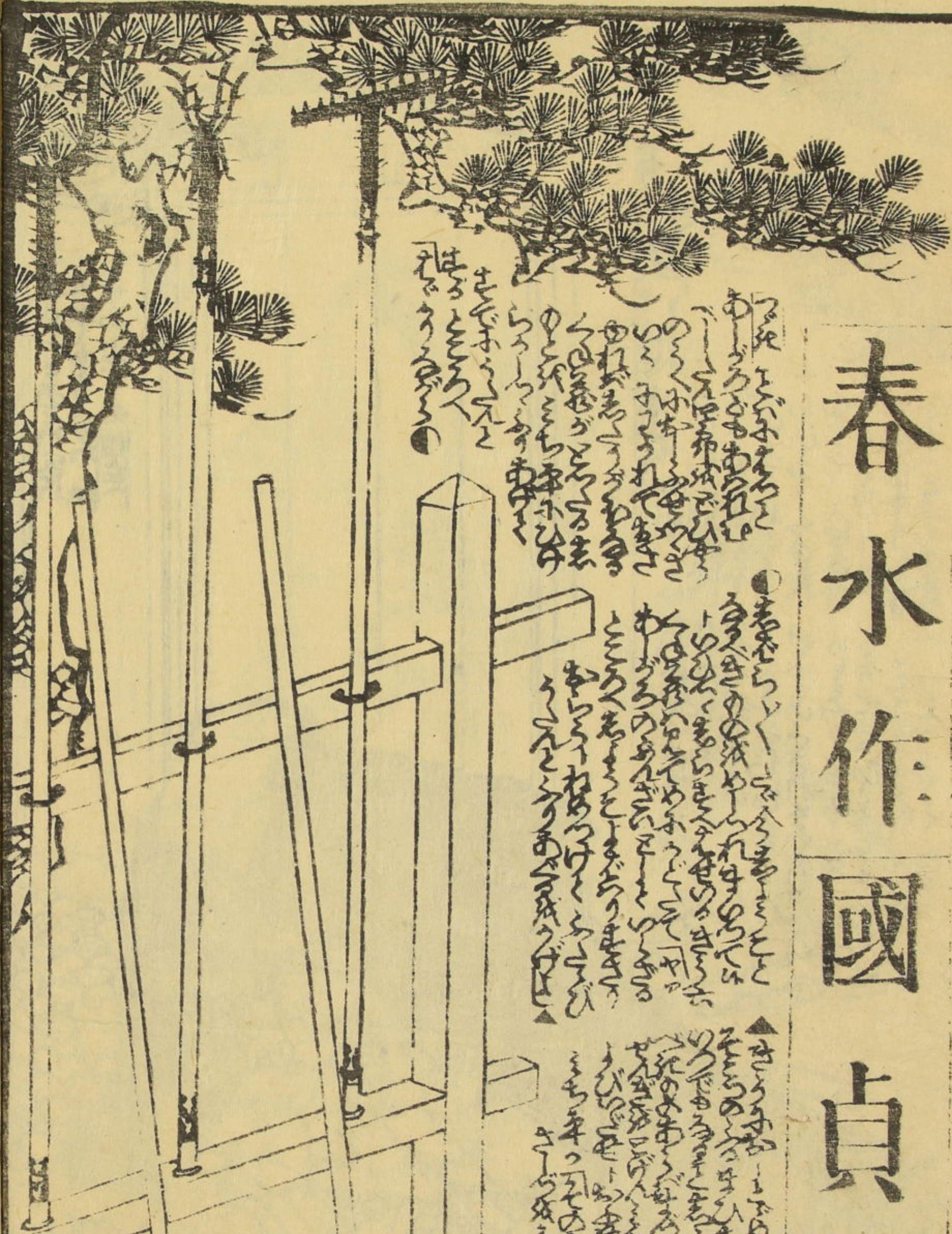
九、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。

十、この物語は、  
 昔の事だといふが、  
 今もその名残が  
 残つてゐる。





# 春水作國貞画



春水作國貞画  
此の画は、春水の筆で、國貞の意を写したものである。松の枝葉は、墨の濃淡で表現され、木立の構図は、簡潔で洗練されている。石灯籠の位置も、景の深みを増している。

春水作國貞画  
この画は、春水の筆で、國貞の意を写したものである。松の枝葉は、墨の濃淡で表現され、木立の構図は、簡潔で洗練されている。石灯籠の位置も、景の深みを増している。

春水作國貞画  
この画は、春水の筆で、國貞の意を写したものである。松の枝葉は、墨の濃淡で表現され、木立の構図は、簡潔で洗練されている。石灯籠の位置も、景の深みを増している。

淨書  
吉洲

## 風流画半切

越前奉書紙  
伊豫奉書紙

○縮り  
○半切

## 任齋百圖全

洞都画

上  
下

忠臣義士銘傳

本畫の趣意は、風流の精神を表現することにある。松の枝葉は、墨の濃淡で表現され、木立の構図は、簡潔で洗練されている。石灯籠の位置も、景の深みを増している。

目録  
一、松の枝葉  
二、木立の構図  
三、石灯籠の位置

忠臣義士銘傳  
この銘傳は、忠臣義士の精神を表現することにある。松の枝葉は、墨の濃淡で表現され、木立の構図は、簡潔で洗練されている。石灯籠の位置も、景の深みを増している。

當年  
新板  
高

系代  
名代

春水作國貞画  
この画は、春水の筆で、國貞の意を写したものである。松の枝葉は、墨の濃淡で表現され、木立の構図は、簡潔で洗練されている。石灯籠の位置も、景の深みを増している。

若林堂藏

